

## 会 議 録

会 議 名	令和3年度 第3回 川西市社会教育委員の会(地域学校協働本部部会) 兼 地域学校協働本部運営会議		
事務局	教育推進部 社会教育課・教育保育課 (内線 3421・3412)		
開催日時	令和3年7月19日(月)15時30分～17時00分		
開催場所	キセラ川西プラザ2階 共用会議室		
出席者	委 員	野崎議長、金子委員、中川委員、岩永委員、井上委員	
	そ の 他	安達地域学校協働活動推進員	
	事 務 局	山戸教育推進部副部長(教育保育担当)、村山社会教育課長、高橋教育保育課長、大下主査、網永事務員	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	別紙のとおり		
会議結果	別紙のとおり		

# 審議経過

## 1. 開 会

## 2. 副部長あいさつ

## 3. 令和3年度の役員選出等

川西市地域学校協働本部事業実施要綱第9条2「運営会議の座長は、社会教育委員の会の議長を充てる」に従い、座長として社会教育委員野崎議長が就任された。

## 4. 報告事項

### (1) 令和2年度の地域学校協働活動について

令和2年度 川西市地域学校協働本部事業報告書、決算報告書に沿って活動、決算を事務局より報告がなされた。(書面決議にて承認済み)

### (2) 令和3年度の地域学校協働活動について

令和3年度 地域学校協働本部事業 計画書(案) 予算に沿って事務局より報告がなされた。(書面決議にて承認済みだが、一部変更あり)

【変更点】7月にCSマイスターによる研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、延期となった。10月に開催予定。

地域学校協働活動推進員から「地域学校協働活動先進校視察は川西市と近い形で地域学校協働本部を設置している学校に視察に行きたい」という意見があり、事務局は地域学校協働活動推進員の意見を参考にしながら視察先を決定していく。

川西市 地域・学校協働連携推進事業について(案)について事務局より説明がなされた。

## 5. 質疑・意見交換

議題 地域ボランティアが常駐する部屋をつくった方がいいのではないか。

### 【現状・問題】

- ・ある学校では、地域の人のための部屋があり、その部屋はもともと地域の人が活動できる場所であったが、現在鍵を地域の人をもってない為に入れない。
- ・校門には鍵、校舎にはセコムを設置しているため、容易に地域の人が学校に入ることはできない。また、防犯上地域の人が、校門しか入り口の無い学校を自由に出入りすることは難しい。
- ・駐車場がせまく、地域の人が気軽に駐車できる場所がない。

### 【他市の状況】

- ・視察した岩根小学校や横浜にある小学校は、子どもと地域の人が学校に入る入り口を分けていて、地域の人が入る入り口近くに地域の部屋を設置している。
- ・三田市では、学校に地域の人が集まれる部屋を設置しているところもあれば、校舎 1 棟を借りて、地域の人が気軽に集まれるようにしているところもあり、地域と学校の連携がとれるような体制になっている。
- ・明石市では、体育館の下が公民館になっているため、学校の敷居が低い。

### 【意見】

- ・学校によってはプレハブがあってそれを拠点にしてできるところもあるのではないかな。
- ・スポーツ 2 1 のクラブハウスは活用されているが、地域学校協働活動と目的が違うため、部屋は分けた方が良い。
- ・スクールサポートスタッフの人材も共有した方が良い。
- ・今部活動も地域の外部の人が指導しているが、今後部活動を指導する地域の方が増えるのであれば控室もいるのではないかな。また、先生と指導者が繋がれないのが一番の問題で、交友するスペースが必要だと感じる。

議題 学校運営協議会と地域学校協働本部の進むべき軸・方向性はどうか。

### 【現状・問題】

- ・学校運営協議会と地域学校協働本部の委員がほぼ同じで組織を分ける理由が分からず、両輪ではなく、一つの輪でいいのではないかなという地域の意見がある。
- ・持続可能な学校運営や先生の働き方改革、地域活性という明確な目的はあるが、具体的なところはなかなか伝えられない。中学校だと部活動、小学校は授業補助、登下校の見守りなどが大きく求められているところだと思う。

### 【意見】

- ・学校運営協議会と地域学校協働本部が車の両輪ということになってるが、その両輪の軸は何なのか、進むべき方向はどこなのかが十分に合意形成ができていない。
- ・市はどう考えているのか、どこまで求めているのか。学校によって違うことはわかるけど、それとは別に市としてこれを求めているなどと示してほしい。
- ・先生のためにこういうことが行われているのではないかな。結果的には子どもたちのためになるということは分かるが、部活動とか施設を清潔に保つなどをみると、学校の運営補助のためにこの制度があるという風に見える。
- ・もともとは学校を助けよう、子ども・先生を地域で助けようということがまずある。それプラス学校も地域に何かを返しなさい、winwin の関係をつくるよということによって学校支援地域本部から地域学校協働本部という地域が前にでてきた名前となった経緯がある。持続可能な町づくり、住み続けたい町でいたいよね、将来を支える子どもたちを我々がつくるんだという想いがあれば、この事業が成り立つのではないかな。逆に地域の方が問われているように感じる。この事業をきっかけ

に地域づくりを進めていくという想いが地域の中であるのかどうかで変わってくるのではないか。

- ・地域も教育委員会も譲れないところは子どもたちのためということだと思う。
- ・軸は地域ごとに今後も探っていけないといけないのではないか。

**【今後の対応】**

- ・各学校単位で地域の人の拠点を設置することを今後検討する。
- ・他課とも連携しながら、軸・方向性を検討し、着実に進めていく。

7. 閉会